

# 編修趣意書

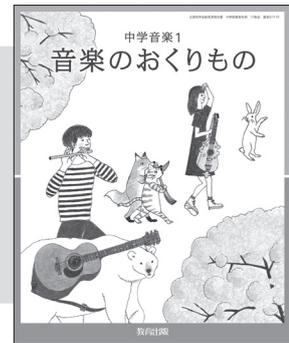
(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-96	中学校	音楽科	音楽（一般）	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
17 教出	音楽017-72	中学音楽1 音楽のおくりもの		

## 1. 編修の基本方針

### 「学びのチカラで人と社会を未来へつなぐ」

自ら問い、考え続け、社会を創っていく子どもたちを育てたい。  
そのような思いをこめて、私たちはこの教科書をつくりました。



## 心を豊かに満たす音楽 響きはつながり、羽ばたいてゆく

「中学音楽1 音楽のおくりもの」は、教育基本法及び学校教育法の内容や、さまざまな教育課題に対応すべく、「音楽を愛好する心情を育み、豊かな情操を養う教材と学習を設定する」「学習の見通しがもて、学びを深める」「先生方と生徒の一人一人に寄り添って、ご授業を支える」。これら三つの観点を基本方針として編修にあたりました。

### 特色 1

音楽を愛好する心情を育み、  
豊かな情操を養う教材と学習を設定しています。

音楽的な見方・考え方を働かせ、イメージや感情の羽ばたきを促すページ構成と、音楽文化と豊かに関わりながら学びを進められる内容の工夫を施しました。

### 特色 2

学習の見通しがもて、学びを深めます。

資質・能力を育むために精選された教材と、適切な学習の進め方を示すことで、主体的・協働的な学びを深められるようにしました。

### 特色 3

先生方と生徒の一人一人に寄り添って、ご授業を支えます。

さまざまなお授業の実態に応じてお使いいただけるよう、ユニバーサルデザインに配慮し、学習内容をわかりやすい文言と美しいビジュアルで表現しました。

音楽を愛好する心情を育み、豊かな情操を養う教材と学習を設定しています。

イメージや感情の羽ばたきを促し、音楽的な見方・考え方を働かせた学習に導くページ

**私自身の一歩の原動力は好奇心です。**  
ピアニスト 角野 伸

**研究者とは**  
私は数学が好きだったので大学は工学部に進み、音楽分野という研究をしました。音楽分野についてわかりやすくいろいろな楽器の音が混ざって響いていく中から、ピアノの音だけを抜き出す」といったようなことです。  
研究とは「今まで人類が積み上げてきたものは何か」ということと、「それに加えて自分が何をプラスできるか」ということを常に探求する作業ではないかと思っています。「まだ誰もやっていないことを発見したい」と思っても、他の研究者が既にやっていた、そんなことはしょっちゅうあります。

**ピアニストとして**  
ピアノは3歳から弾いて、中学生の頃はロックやジャズにも興味、友達とバンドを組んで演奏をしていました。私は大学進学を希望するときに、仕事として研究ではなく音楽を学びました。どちらかといえばですが「自分からここでやることは何か」という大きなことをつづけたとき、私はクラシックピアノを主に、作曲、編曲、録音演奏も手とつづけて、そういうユニークなところを、少しずつ皆さんに評価してもらえようになりました。そして、そのときに受けたピアノのコンクールで優勝できたことも大きな喜びとなりました。今はもっと自分の音楽力を磨きたいというのがいい」と考えたとあります。

**中学生の皆さんへ**  
「今どんな新しいことができるのだろう」と考えるのは、音楽や研究だけでなく、何に対しても楽しいことだと思います。私自身の一歩の原動力は好奇心です。皆さんも、今、世の中にある皆さんのものを観察して、いろいろなことに興味を持って、「知る」ということを楽しんでください。

**角野 伸**  
音楽はメッセージ  
音楽は人々の感情やアイデアを伝えるための、クラシック音楽からジャズやロック、ポピュラー音楽の音楽、そして作曲まで、幅広いアプローチの音楽を扱っている。また、コンピュータやインターネットを通じて、世界中の人々とつながり、音楽を通じて人々の感情を共有している。

教科書巻頭の「With My Heart 音楽はメッセージ」では、ユニークな活動を展開するピアニストから中学生へのメッセージを紹介。音楽的な見方・考え方を働かせた学習の入り口としました。

p.2-3

音楽文化と豊かに関わりながら学びを進められる内容

**日本とアジアの声によるさまざまな表現**

音楽の経路や伝承を捉え、多様性を考えながら鑑賞しよう。  
声の出し方や感じや音色などの特徴を鑑賞しよう。

わが国やアジアの地域には、入声のくらしと結びつきながら、さまざまな声で表現する音楽があります。声の出し方や感じや音色などの特徴を鑑賞しよう。

**天台声明**  
わが国には古くから、仏教の儀式に用いられる声明が、同じ時期に伝わったと考えられています。声明は、音韻が経典（経典などが書かれた書物）の音に即をつけて表現するものです。

**日本の民謡**  
わが国にはさまざまな民謡があります（p.36）。「八木節」と「庄屋節」を比較すると、声の出し方や音程を比べて鑑賞する楽しみや特徴が感じ取れたり、節や拍子の表現の違いがわかります。

**ケチャ (インドネシアバリ島)**  
ケチャは、インドに起源があるといわれている「ラーキヤナ」の物語を題材にした、舞踏劇に用いられる音楽です。ガムランという、主として金属製の鍵盤楽器で演奏される音楽を音楽、声で演奏したものといわれています。

**オルティンドー (モンゴル)**  
モンゴルの民謡には自然や家畜をたたえるものがよくみられます。オルティンドーには「良い歌」という意味があり、目を長く開くはしながら歌います。音程にモンゴルホルン（馬頭琴）という楽器（弓弦楽器）を用いることがあります。

**ホーミー**  
モンゴルにはホーミーという、大きな特徴のある声を用いた表現があります。

**布農(ブヌン)族の合唱 (台湾)**  
台湾の先住民族、布農族による合唱は、動物などの種まきの際、豊作を願って男性が声を合わせて歌います。音の高低や方に特徴があります。

p.58-59

**表現の仕方を調べてみよう**

日本とアジアの声による表現について、それぞれの音楽の特徴をみていこう。  
音程で取上げた日本とアジアの声による表現を、〈聞き取ったこと〉〈感じ取ったこと〉〈調べたこと・わかったこと〉の三つで整理して比較してみよう。

	聞き取ったこと	感じ取ったこと	調べたこと・わかったこと
実例			
日本の民謡	「八木節」		
	「庄屋節」		
ケチャ			
オルティンドー			
布農(ブヌン)族の合唱			

**Let's Try! ケチャを体験しよう**

A～Dの四つのパートに分かれて、ケチャのリズム・アンサンブルを体験してみよう。  
1～16拍を表現しています。◎は12拍が一つのまとまり、①と②は16拍が一つのまとまりです。「◎」の部分は休みです。◎はゆっくりとした速度で練習して「ケチャ」の仕組みを理解しましょう。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
C	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
D	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

Aが先導く「ケチャ」を表現して演奏を開始します。Aはリーダーなので一人で演奏しましょう。

p.60-61

わが国とアジア地域の多様で豊かな声による表現を鑑賞し〈聞き取ったこと〉〈感じ取ったこと〉〈調べたこと・わかったこと〉を整理します。「Let's Try! ケチャを体験しよう」で学習を深めることができます。



## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
〈教材選定における配慮〉	○幅広い知識と教養、豊かな情操を培えるように、我が国及び諸外国の音楽から、さまざまな時代や曲種のものを選び、音楽のもつ多様なよさや面白さを感じ取ることができるように配慮しました。(第1号)	・全学年
〈教材の配列と扱いにおける配慮〉	○生徒一人一人がその能力を伸ばし創造性を培えるように、教材の配列や扱いに配慮しました。(第2号)	・全学年
巻頭 「With My Heart 音楽はメッセージ」	○著名な音楽家からのメッセージなどを掲載し、生徒の豊かな情操の育成に配慮しました。(第1号)	・p.2-3
	○個人の価値を尊重し、音楽家を職業として意識できるメッセージを掲載しました。(第2号)	・p.2-3
〈歌唱〉	○合わせて歌う活動を通して、自他の敬愛と協力を重んずる点を重視しました。(第3号)	・p.10-17 ・p.26-33 ・p.66-85
	○自他の敬愛と協力が感じられる歌詞内容を重視しました。(第3号)	・p.78-83
	○郷土の伝統的な歌唱という点を重視しました。(第5号)	・p.34-35
	○我が国の自然や四季の美しさ、暮らしとの関わりを感じ取れる点を重視しました。(第4号、第5号)	・p.84-85
〈鑑賞〉	○民謡が暮らしの中で育まれてきた点を重視しました。(第5号)	・p.36-37
	○我が国の伝統音楽の特徴を感じ取れるものを重視しました。(第5号)	・p.52-56
	○他国を尊重し、音楽文化の共通性や固有性を感じ取れる教材の充実を図りました。(第5号)	・p.58-60
〈創作〉 「音のスケッチ」	○グループで表現する活動を通して、自他の敬愛と協力を重んずる点を重視しました。(第3号)	・p.40-41
	○日本語の特徴などを感じ取れるように配慮しました。(第5号)	・p.38-41
〈共通教材〉 「日本の歌 みんなの歌」	○写真や資料を配し、我が国の自然や四季の美しさを大切にする気持ちを育むよう配慮しました。(第4号)	・p.18-23
国歌「君が代」の扱い	○歌詞や楽譜が読みやすい見開き構成とし、「細石」の写真や歌詞の大意を掲載しました。(第5号)	・p.86-87
	○自国や他国の国歌が演奏される場面をスポーツ大会の写真で表し、国歌が担う国際的な役割を示すようにしました。(第5号)	・p.86-87

### 3. 対照表の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

#### 人権教育・特別支援教育

専門家による校閲を受け、全ての人にとっての学びを保障する「ユニバーサルデザイン」の観点に立って編修しました。

#### 人権教育への配慮

人権を尊重し、あらゆる差別やジェンダーなどについても配慮しています。

#### カラーユニバーサルデザインへの配慮

紙面全体、文字や図版については、色の組み合わせや濃淡の工夫、また罫線や記号・番号、文字の補助を施すなど、色覚の多様性を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。



#### ユニバーサルデザインフォントの使用

紙面でもデジタル画面でも、見やすく、読みやすいユニバーサルデザインフォントを要所に使用しています。



#### ESD・SDGsへの取り組み

ESD・SDGsへ対応した教材を設定し、専門家による校閲を受け、関連する内容をマークで示しました。

p.58「日本とアジアの声によるさまざまな表現」では、我が国やアジアの暮らしと結びついた音楽から、人や国の不平等をなくすことと、世界の文化遺産の保護に努力することへの意識づけが図れます。

#### ICTを活用した個別最適な学習への配慮

##### まなびリンク

紙面上の二次元コードを通じた、良質なデジタルコンテンツ（動画、音声、ワークシート）の活用により、学習への意欲を高め、学びを活性化し、確かなものにすることができます。

教科書の紙面では、二次元コード中央のピクトグラム「見る」「聴く」「記録する」が目印です。

※インターネット環境によって、ご家庭など校外からもアクセスが可能です。



見る（動画）



聴く（音声）



記録する（ワークシート）

#### コンピュータ（タブレット型等）の活用

発達段階に応じて、コンピュータ（タブレット型等）を効果的に活用できる学習活動を設定しています。

#### デジタル教科書・教材の発行

教科書と同内容の学習者用デジタル教科書や、動画や音声などを追加した学習者用デジタル教材及び、指導者用デジタル教科書（教材）を発行します。

#### 今日的な教育課題（カリキュラム・マネジメント）への対応

“比べてみよう”で結びつけられた教材を活用すると、曲想や音楽の構造などを比較して学びを広げることができます。そして、すすんで学び合うための活動例〈Active!〉、歌うためのワンポイント・アドバイス〈Sing! Sing!〉、声や楽器を取り入れた活動〈Let's Try!〉、合唱曲集〈歌のアルバム〉を組み合わせることで、地域や学校ごとのカリキュラムへの対応が可能です。

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-96	中学校	音楽科	音楽(一般)	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
17 教出	音楽017-72	中学音楽1 音楽のおくりもの		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### 特色 1

音楽を愛好する心情を育み、豊かな情操を養う教材と学習を設定しています。

### 音楽的な見方・考え方を働かせた学習に導く紙面構成

活動のポイント〈音楽的な見方・考え方のヒント〉

題材名  
〈育成を目指す  
資質・能力〉

光の道

作曲家からのメッセージ  
〈音楽的な見方・考え方のヒント〉

新出の用語や記号など  
〈共通事項〉

p.10-11

### 音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す

箏曲「六段の調」

日本とアジアをつなぐ音

p.52-55

箏曲「六段の調」で、我が国の伝統音楽の特徴とそこから生まれる音楽の多様性について理解を促し、【日本とアジアをつなぐ音】で、箏と同じ発音原理をもつアジアの楽器を比較し、音楽表現の共通性や固有性について考えます。

# 特色 2

## 学習の見通しがもて、学びを深めます。

指導のねらいに照らして適切な教材を、学びが深まる構成や配列でご提示

すすんで学び合うための活動例

「サウンド・オブ・ミュージック」から  
**DO-RE-MI (ドレミの歌)**

●それぞれの曲の特徴を生かした表現を工夫しよう。  
●二つの曲の曲想の違いを理解して歌おう。

**エーデルワイス**

p. 14-16

**Active!** 注 比べてみよう

「サウンド・オブ・ミュージック」から  
**「DO-RE-MI (ドレミの歌)」** QRコード

それぞれの曲の**特徴**についてまとめよう  
それぞれの曲の、速度、拍子、テクニク(音の響き方)などについて調べ、比べてみよう。  
調べた内容について交流し説明しよう。

	DO-RE-MI (ドレミの歌)	エーデルワイス
速度		
拍子		
テクニク (音の響き方)		
その他 気づいたこと		

曲の特徴を生かして表現の工夫を工夫しよう  
それぞれの曲の①～④の部分ごとに、曲の特徴を生かした表現の仕方について考えてみよう。  
それをもとに交流しよう。

	DO-RE-MI (ドレミの歌)	エーデルワイス
①		
②		
③		
④		

疑問の点や、ほかに気づいたことや疑問点を先生に、友達に  
ついてどういった工夫ができたかを発表しよう。

「DO-RE-MI」と「エーデルワイス」の曲の特徴を、[音楽を形づくっている要素]を手がかりに比較し、曲想の違いを理解して、表現の工夫に生かします。

**全体の構成を考えながら音楽をつくらう**

●言葉のつづりやリズム、全体のまとまりを工夫して音楽をつくらう。  
●言葉のリズムを参照して、ストーリーを音楽表現しよう。

はじめに 日本語には、自然や動物、物などが発する音や、様子を表す言葉がたくさんあります。

活動 1 5-6人のグループになり、表現したいテーマを決め、さまざまな言葉で表現しよう。

活動 2 「活動1」で決めた言葉をカードにして、繰り返し読み聞かしてテーマを表現しよう。

活動 3 テーマに合った簡単なストーリーを想像し、構成や言葉の響きを工夫して、イメージに合った音楽をつくらう。始め方と終わり方を工夫しよう。

ストーリー

① 公園にハトやスズメが飛んでどんだん集まってくる。  
② 犬がはえる。鳥たちが一斉に飛び立ち、公園に静寂が訪れる。  
③ 再び鳥たちが集まりだし、公園がにぎやかを取り戻す。

音の構成

① 公園にハトやスズメが飛んでどんだん集まってくる。 (A) 公園にハトやスズメが飛んでどんだん集まってくる。 (B) 犬がはえる。鳥たちが一斉に飛び立ち、公園に静寂が訪れる。 (C) 再び鳥たちが集まりだし、公園がにぎやかを取り戻す。

もっと楽しもう

もう一度、簡単なストーリーやイメージの音楽を練習し、交流したことを参考に作品をつくり直そう。

p. 40-41

[全体の構成を考えながら音楽をつくらう]では、言葉の自然なリズムや抑揚を聴き取り、反復や重ね方による全体の構成を考えながら創作します。

**Let's Try!** 前編 創作・発表

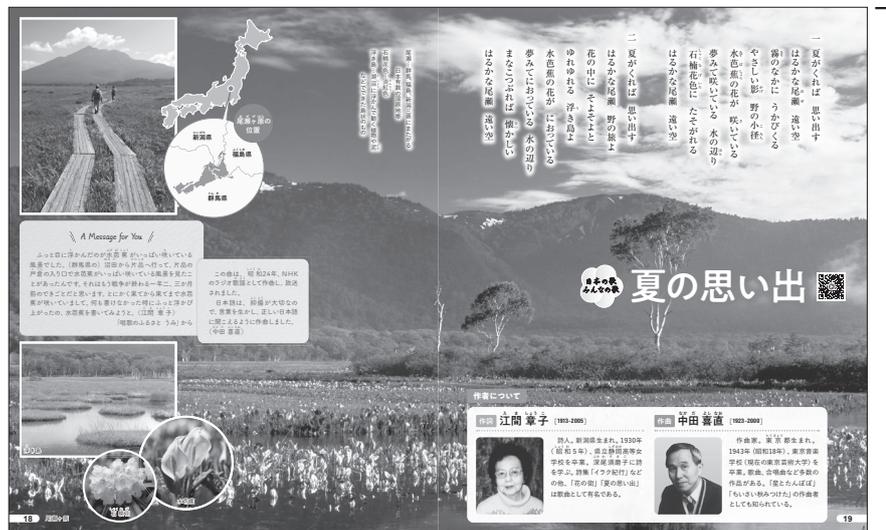
**くいしんぼうのラップ**

全体の構成を理解して表現を深めよう。  
速度や強弱を自由に設定して表現を工夫しよう。

p. 42

「くいしんぼうのラップ」では、言葉の反復や重ね方を理解して表現します。これを〈学びを深めるヒント〉にして、創作に生かすことができます。

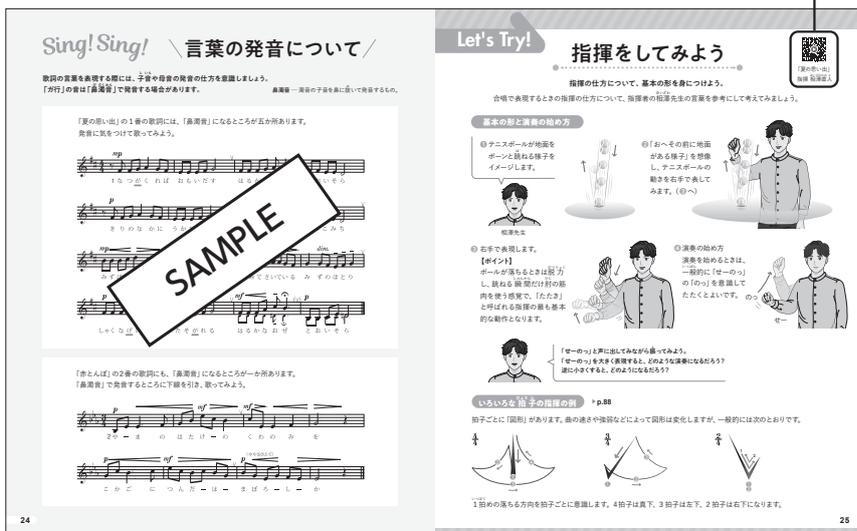
表現及び鑑賞の幅広い活動の支えになる、見やすく整理されたデザイン



「夏の思い出」では尾瀬の美しい写真をレイアウトしました。

p.18-19

[Sing! Sing! 言葉の発音について]で「夏の思い出」の鼻濁音を取り上げ、[Let's Try! 指揮をしてみよう]で指揮の仕方をイラストと動画で解説します。



p.24-25

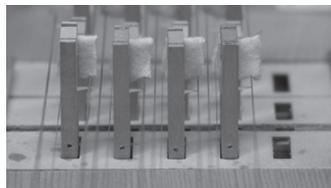
学習に役立つ情報を集めたウェブサイト〈まなびリンク〉では、「夏の思い出」を例題にした、指揮の解説動画を視聴できます。



p.44-47



まなびリンクでは、「チェンバロの発音原理」の解説動画を視聴できます。





## 検討の観点と内容の特色

観点	内容の特色（該当箇所掲載）
知識及び技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [共通事項] に示された「音楽を形づくっている要素」を手がかりに学習を進めることを示し (p.9、p.62)、見開き左端に題材を表しました (p.10－p.59)。</li> </ul>
思考力、判断力、表現力等の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [共通事項] に示された「音楽を形づくっている要素」をもとに、音楽の魅力を感じ取ったり、思いや意図を生かして表現したりできるよう、教材や扱い方に配慮しました (p.14－16、p.44－47他)。</li> </ul>
主体的・協働的で深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生徒が主体的・協働的に学習を進め、すすんで学び合うための活動例を示しました (p.16、p.26、p.47、p.49)。</li> </ul>
系統性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1年間の学習の流れを領域・分野ごとに「学習MAP」として表しました (p.8－9)。「学習MAP」では、領域・分野相互のつながり方も示し、更に学年相互のつながりも配慮しました。</li> </ul>
配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 精選された教材を適切に扱える分量で、〈題材〉〈活動のポイント〉と合わせて配列しました。</li> </ul>
歌唱教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 音域、長さ、歌詞が発達段階に適合するように、教材を精選しました。合唱形態は、導入から混声三部まで配慮をしました。</li> </ul>
創作教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 思いや意図を生かして創作ができるよう、活動の手順を示しました。手順の補完は、キャラクターが吹き出しで示すなどの配慮をしました。</li> </ul>
鑑賞教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 聴き取ったことや感じ取ったことを整理しながら進める学習に適した教材を、譜例、写真、イラストと併せて示しました。</li> </ul>
伝統・文化の尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 歌唱共通教材では、歌詞から想像される情景を表す写真や資料を掲載しました (p.18、p.22)。</li> <li>• 我が国の伝統音楽の特徴と多様性について配慮しました (p.36、p.52、p.56)。</li> </ul>
国際理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 外国語の学習との関連から英語歌詞の教材を扱いました (p.14－15)。</li> <li>• 日本とアジアの音楽の、共通性と固有性を感じ取れるように配慮しました (p.58－61)。</li> </ul>
生活や社会とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 音楽家による、生活や社会と音楽との関わりが感じ取れるメッセージを掲載しました (p.2－3)。</li> </ul>
教育基本法との対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第二条第1号～第5号に適合するように編修しています（教育基本法との対照表をご参照ください）。</li> </ul>
ICT機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 紙面に掲載した二次元コードで、生徒の使用する端末からインターネットを使って容易に閲覧できる動画・音声・テキストの資料〈まなびリンク〉を用意しています。</li> </ul>
特別支援教育・ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 専門家による校閲を受け、全ての人にとっての学びを保障する「ユニバーサルデザイン」の観点に立って編修しました。</li> </ul>
ESD・SDGsへの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 我が国やアジアの暮らしと結びついた表現から、人や国の不平等をなくすことと、世界の文化遺産や自然遺産の保護や保全に努力することについて意識できるようにしました (p.58－59)。</li> </ul>
文字、印刷、製本	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 文字は見やすさを第一義に、字体、字間、行間に配慮しました。</li> <li>• 印刷は鮮明さと見やすさを、製本は長期の使用に十分に耐えられることを第一義に取り計らいました。</li> </ul>

## 2. 対照表

教材 (◎…鑑賞教材)	該当箇所	A 表現												B 鑑賞						共通事項		他教科との 関連				
		(1) 歌唱				(2) 器楽				(3) 創作				(1) 教材						(1)						
		ア	イ		ウ		ア	イ		ウ		ア	イ		ウ	ア			イ				ア	イ		
			ア	イ	ウ	イ		ウ	ア	イ	ウ		ア	イ		ウ	ア	イ	ウ							
光の道	p.10～p.11	○	○		○																		○	○		
歌うための準備	p.12～p.13	○		○	○																			○	○	
DO-RE-MI (ドレミの歌)	p.14	○	○			○																		○	○	英語
エーデルワイス	p.15	○	○			○																		○	○	英語
夢の翼	p.17	○	○		○																			○	○	
夏の思い出	p.18～p.21	○	○		○																			○	○	
赤とんぼ	p.22～p.23	○	○		○																			○	○	
言葉の発音について	p.24	○		○	○																			○	○	
指揮をしてみよう	p.25	○	○		○																			○	○	
明日を信じて	p.26～p.27	○	○			○																		○	○	
飛び立とう君の空へ	p.28～p.29	○	○			○																		○	○	
変声と混声合唱	p.30～p.31	○	○			○																		○	○	社会
あの丘の向こうから	p.32～p.33	○	○			○																		○	○	
ソーラン節	p.34	○		○	○																			○	○	
かりばし切り歌	p.35	○		○	○																			○	○	
◎郷土のさまざまな民謡	p.36～p.37																○	○		○	○	○	○	○	○	社会
日本語の抑揚を生かした 旋律をつくろう	p.38～p.39					○	○		○	○		○	○		○									○	○	国語
全体の構成を考えながら 音楽をつくろう	p.40～p.41											○	○	○										○	○	国語
くいしんぼうのラップ	p.42～p.43	○		○	○																			○	○	
◎「春」第1楽章	p.44～p.47																○	○		○	○		○	○		
◎魔王 (シューベルト)	p.48～p.51																○		○	○	○		○	○		国語
◎魔王 (ライヒャルト)	p.49																○		○	○	○		○	○		
◎箏曲「六段の調」	p.52～p.54																○	○		○	○	○	○	○		
◎日本とアジアをつなぐ音	p.55																○		○	○		○	○	○		
◎尺八曲「鹿の遠音」	p.56																○	○		○	○	○	○	○		
唱歌でポン	p.57	○		○	○	○		○	○															○	○	
◎日本とアジアの声による さまざまな表現	p.58～p.59																	○	○		○	○	○	○		社会
表現の仕方を調べてみよう	p.60																	○	○		○	○	○	○		
ケチャを体験しよう	p.61	○		○	○																			○	○	
◎どんな特徴があるかな？ きらきら星変奏曲	p.62～p.63																○		○					○	○	
コンピュータで表現しよう	p.64											○	○		○									○	○	技術
チャイム チャイム!	p.66	○	○			○																		○	○	
心ひらけば	p.67	○	○			○																		○	○	
明日への勇気	p.68～p.69	○	○			○																		○	○	
海が明けるよ	p.70～p.71	○	○			○																		○	○	
希望という名の花を	p.72～p.73	○	○			○																		○	○	
マイバラード	p.74～p.75	○	○			○																		○	○	
君と歩こう	p.76～p.77	○	○			○																		○	○	
心をこめて	p.78～p.79	○	○			○																		○	○	
ほらね、	p.80～p.83	○	○			○																		○	○	
故郷 (混声二部合唱)	p.84～p.85	○	○			○																		○	○	
君が代	p.86～p.87	○	○	○	○																			○	○	